

## 視 察 調 査 報 告 書

委員 会 名	経済建設常任委員会
参 加 者	委 員 長 中根 武彦          副委員長 柵木 誠 委 員 鈴木 雅子          三浦 康宏          野本 篤 井町 圭孝          畔柳 敏彦          柴田 敏光 加藤 義幸
視 察 日 時	平成31年 1月24日（木）14：00～16：00
視 察 先 ・ 概 要	兵庫県姫路市 人口：535,664人    世帯数：228,605世帯    面積：534.48 k m <sup>2</sup> 特記事項：住みよさランキング2018（東洋経済）総合246位 （安心550位、利便455位、快適229位、富裕127位、住居514位）
視 察 項 目	「姫路城を中心とした観光振興」について
視 察 概 要	<p>&lt; 姫路城を中心とした観光振興 &gt;</p> <p>姫路市は世界文化遺産であり国宝でもある姫路城を擁しており、播磨地域の中核都市として発展している。姫路市を象徴する姫路城であるが、平成21年度から26年度にかけて大天守保存修理事業が実施され、これが姫路における観光の転換点となった。</p> <p>姫路城大天守保存修理事業によって、大天守が見えなくなることや大天守内部に上ることができなくなるなど観光面でのマイナス要素が発生したが、発想の転換によって工事そのものを観光資源に活用し、改修の様子を見学する施設を開設するなどの取り組みを行うとともに、ランドオープンに向けてWi-Fi環境の整備、クレジットカード決済の導入、城内サインや展示のリニューアル、混雑対策、回遊に向けた取り組みなどを行い、観光環境の充実を図った。ランドオープン当日は1万6,000人の来場があり、最長3時間待ちのにぎわいを見せた。</p> <p>また、ランドオープン後には、新たな取り組みとしてライトアップやイルミネーション、夜間特別公開などを開催することにより集客を図るとともに、夜間に開催するイベントとすることで滞在型観光へつなげている。さらに、今年度は新たに早朝特別公開を企画して朝型観光を実施し、宿泊と組み合わせることで滞在型観光を推進している。</p> <p>そのほかにも、播磨地域の中核都市にふさわしい交流の拠点施設として、文化・芸術の拠点機能とものづくりの強化・地域ブランドの育成・交流人口の増加の促進機能をあわせ持った姫路市文化コンベンションセンターを整備予定であり、また、姫路城を初めとして美術館や好古園など歴史的、景観的に価値のある施設を活用する、ユニークベニューHIMEJIプランと銘打った会場利用の仕組みを制度化し、MICE誘致を推進している。</p>

<p>所 感</p> <p>視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界文化遺産、国宝である姫路城を有している姫路市が、さらなる観光都市を目指して多くの事業に取り組む姿には感服した。本市も近年は積極的に観光事業に取り組んでいるが、観光資源である神社・仏閣の多さは全国有数であるとともに、徳川家康公生誕地としても知れ渡る中において、関連の文化財も多く点在しているが、その文化財の生かし方も万全であるということはない。今後本市の観光戦略に必要であると感じた事項と姫路市が取り組む観光戦略を比較したときに、次の点を重要参考箇所として学びたいと感じた。 観光客受け入れ環境の充実 魅力ある観光資源の開発 観光産業の育成 外国人観光局の誘致。</li> <li>・既にオープンから4年が経過しているためか、今回はグランドオープン後の取り組み、イルミネーション、プロジェクションマッピングなど、幻想的な演出などを焦点に説明があった。滞在型観光を進めるために、書写山での座禅体験、天守閣から朝日を望む、城の夜間特別公開などは、奇抜なアイデアだと感じた。姫路では、そのためのコンベンションホールを稼働率未定で約230億円以上で建設するのには驚いた。この中で、姫路城三の丸広場や西御屋敷跡庭園好古園を500万円や50万円で施設使用させる案も斬新である。必要性は姫路市民が決めることだが、全国的にパラオリやMICE、大阪万博を期待したプロジェクトの展開がされており、本市も含めて金太郎あめ的な展開をしてよいものかとも感じる。</li> <li>・議員に当選し、平成24年11月に初めて行った視察で姫路城大天守保存修理事業の「天空の白鷺」を、平成29年10月にもその後の展開を学び、今回さらに現状を伺い、そのたびごとに進化を遂げ、町並みも大いに変化し発展している姿に行政の努力を実感した。秋から冬の閑散期の仕掛け、1年間でホテル1,000室増、姫路市文化コンベンションセンターとユニークベニューを合わせ他都市との差別化を図る話など、本市に生かせる参考となる話が多く勉強になった。</li> <li>・駅をおりると姫路城まで延びる道が圧巻で、これだけで城を中心とした歴史観光まちづくりの成果がわかる。周囲の商店街にも元気を感ずると同時に、放置自転車対策やほうきとちり取りを持ち維持管理に努める人たちを見かけ、関係する市民で支え合っていることがわかる。駅から城までの大きな道には企業と提携されたシェアサイクル、木製の床とベンチやデザイン性の高い歩道の整備。公共の空間の有効活用を感じる。平成22年からの天守の保存修理から27年のグランドオープンまで、観光客が減ったことにより、周囲は城のありがたさを痛感し、城の文化価値と観光客へのおもてなしの向上に力が入っているとのことであった。将来、本市も岡崎城と岡崎公園のあり方を考える時が必ず来る。歴史的な文化価値や史実に基づく公園とするか、歴史博物館としての城やにぎわいの公園とするかを慎重に判断していくことが必要と考える。</li> <li>・世界遺産姫路城に甘えることなく、観光客数をふやすためにさまざまな努力、知恵を出していることには正直驚いた。姫路城をさらに生かす</li> </ul>
---	---

観光戦略、シティプロモーションの考え方を参考にして、本市の観光についても一般質問などで提案していきたい。

・姫路市は平成 27 年、姫路城のグランドオープンにより年間入場者数 1,000 万人を超えている。世界遺産姫路城は観光資源として大きな存在であり、本市の比ではない。しかし、姫路市はさらに滞在型宿泊者数をふやすため、姫路城大天守からの日の出観賞など新たな視点で観光客誘致の企画などを行っていることを伺い、本市の岡崎城の魅力発信に生かせるのではと感じた。さらに、最大 2,000 席の文化コンベンションセンターを計画し、国際会議、学会の学術会議などを誘致して姫路のまちに人が集まるように、事業の実現に向けて努力されている。稼働率向上のために中小企業の方へも PR を推進している。本市もコンベンションホールの構想があるが、稼働率向上の参考になった。

・姫路城を中心とした観光ということで、改修工事が行われているときも工事そのものを観光資源として活用し、なかなか目にすることができない工事を見学できるようにして入場者数を増加させている。また、改修工事終了後も、世界遺産姫路城ということだけでも観光入場者数が見込める中、姫路城を生かした夜間イベント、日の出を大天守から見るイベント等を企画して増員させている。イベント企画会社や旅行会社との連携が密に行われている。また、商店街ともうまく組み合わせられており、受け入れ体制が整っている。周辺も、滞在型を進める行政と宿泊施設が意見を出し合い、コンベンションホールも計画され、観て、食べて、買い物をして、宿泊をする、またインバウンドには欠かせない、体験のできる事業も充実している。本市も岡崎城を観光施設の一つと考えるのであれば、イベント企画を 1 年通して充実させることが重要であると考え。本市も生誕祭でのイルミネーション、ブルーライトによる乙川での泰平の祈りなど魅力ある企画をしているが、姫路城のように、天守での日の出を見る企画を考えていくこともよいのではないかと考える。また、ビスタラインを光で大樹寺と結ぶことも行われているが、ビスタラインを歴史的な名前に変更してはという意見も聞いており、天下の道などよいのではという提案もある。市民とともに、多くの提案を検討していくべきであると考え。

・まず驚いたことは組織形態である。観光振興局のもとにシティプロモーション推進課、M I C E 推進課、観光振興課等があり、シティプロモーション推進課が観光施策について担当しており、シティプロモーションの柱が観光施策であることがうかがえる。平成 26 年度の姫路城グランドオープン以降、観光入込客数も落ちついた感があるが、現在もシティホテルの進出があることで姫路の魅力が高いことがわかる。観光産業の推進のために、コンベンション施設をつくり、M I C E 誘致に積極的に取り組む姿勢は本市も見習いたい。全ては岡崎市の魅力をどう引き出すかにかかっているであろう。

委員長の総括	<p>「姫路市観光戦略プラン」について視察した。姫路市は、姫路城（世界文化遺産）を初めとする数多くの歴史資源はもとより、各地域の伝統的祭礼やお祭りなどの文化資源が存在し独自の文化を継承してきている歴史のまちであり、スケールは違うが岡崎市も似たまちである。歴史を背負ったまちは、観光によって生み出される人との交流により地域経済の活性化に貢献する度合いも大きい。そのことが、そこに住む人々の文化資源の価値を再認識し、貴重な資源として守るだけでなく、精神も同時に継承していくことでまちの多面的成長につながっていくものと考え。</p> <p>（参考になった内容）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・姫路城大天守グランドオープンに向けた企画内容</li><li>・グランドオープン後の新たな取り組み（滞在型の観光プラン）</li><li>・欧米、アジアをはじめとしたインバウンドの推進</li><li>・民間企業（旅行会社）と行政との連携内容</li><li>・ユニークベニューH I M E J Iプランの展開</li></ul>
--------	---